

# 地上デジタル放送に 関するアンケート調査

2011 年 7 月までにアナログ放送は、地上デジタル放送へ完全移行する。国、(社)デジタル放送推進協会及び関係事業者等が広報・普及活動等を行っている中、鳥取県内の地上デジタル放送に関するアンケート調査を行った。

## 調査概要

調査目的	鳥取県内の地上デジタル放送に関する認識や視聴実態等の把握
調査対象	鳥取県内勤労世帯の家計を主に取りしきる方 1,000 名
調査期間	平成 19 年 11 月 8 日(木)～11 月 19 日(月) (平成 19 年冬のボーナス・消費アンケート調査と同時に実施)
回答状況	回答者数:638 人(回収率 63.8%) 20 歳代 127 人、30 歳代 201 人、40 歳代 179 人、50 歳以上 131 人
アンケート調査項目	1.地上デジタル放送の認知(認知度・完全移行時期の浸透度) 2.地上デジタル放送普及率 3.地上デジタル放送利用状況(視聴方法・利用サービス) 4.地上デジタル放送切替予定(切替予定時期・切替予定方法) 5.デジタルチューナー買い足し希望価格帯

## 概 況

地上デジタル放送について、「よく知っている」、「聞いたことはある」と回答した方は 95.9%、完全移行時期を「2011 年」と回答した方は 73.7%であり、鳥取県内では広く認知はされていることが窺える。また、既に約 3 割の方が地上デジタル放送を視聴しており、その中の 6 割以上の方が「対応型テレビ」で視聴し、よく利用するサービスは、「いつでもニュースや気象情報が見られる機能」や「テレビ番組ガイドによる簡単録画予約機能」であった。

一方、地上デジタル放送を視聴していない方に、切替予定時期を尋ねたところ、「ぎりぎりまで切替えたくない」が 6 割以上で、広く認知されてはいるものの、切替えに積極的な人は意外に少ない結果となった。切替予定方法については、「テレビを買換える」が半数以上を占め、「ケーブルテレビ」が約 3 割、「デジタルチューナーを買い足す」が約 2 割であった。「デジタルチューナーを買い足す」と回答した方の買い足し希望価格帯は、10,000 円以下が 7 割以上となり、低価格での購入を希望していることが窺える。

## 1. 地上デジタル放送の認知(認知度・完全移行時期の浸透度)

(認知度(「よく知っている」+「聞いたことはある」):95.9%)

(完全移行時期の浸透度(「2011年」):73.7%)

### (1)認知度(「よく知っている」+「聞いたことはある」)

地上デジタル放送がどのようなものか尋ねたところ、「よく知っている」32.4%、「聞いたことはある」63.5%、「知らない」4.1%であった。鳥取県内の地上デジタル放送の認知度は95.9%となり、広く認知されていることが窺える。

各年代の認知度を見ると、20歳代 96.1%(「よく知っている」37.8%・「聞いたことはある」58.3%)、30歳代 96.6%(同 27.9%・同 68.7%)、40歳代 95.5%(同 34.6%・同 60.9%)、50歳以上 95.4%(同 31.3%・同 64.1%)で、年代による大きな違いは見られなかった。

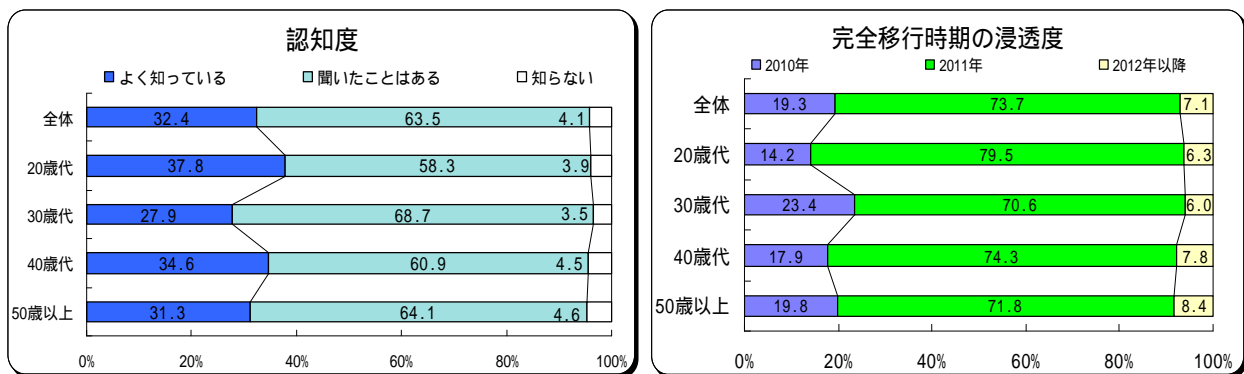
「よく知っている」と回答した割合は20歳代(37.8%)が最も多く、30歳代(27.9%)より9.9ポイント高かった。一方、「知らない」と回答した割合は30歳代の3.5%が最低であった。

### (2)完全移行時期の浸透度

地上アナログ放送から、地上デジタル放送へ完全移行する時期について尋ねたところ、「2011年」と回答した方は73.7%であり、完全移行時期の浸透度は高い結果となった。

年代別の浸透度は、20歳代 79.5%、30歳代 70.6%、40歳代 74.3%、50歳以上 71.8%で、各年代にわたって7割以上に浸透している結果となった。

尚、平成19年5月に総務省が発表した「地上デジタル放送に関する浸透度調査」(以下、総務省調査)によると、地上デジタル放送の終了時期の全国浸透度は60.4%となっており、鳥取県での浸透度が11.4ポイント上回る結果となった。

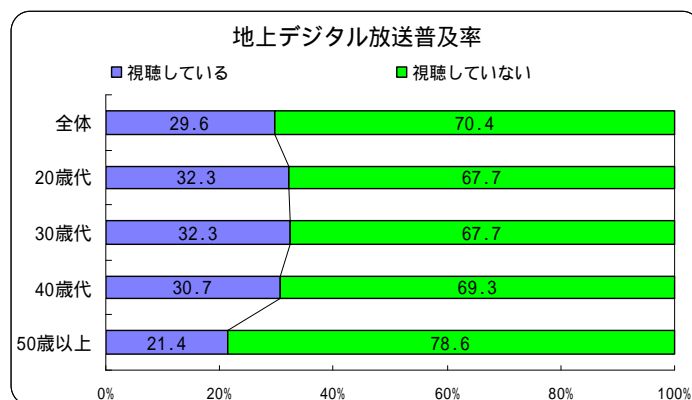


## 2. 地上デジタル放送普及率

(「視聴している」29.6%)

現在地上デジタル放送を視聴しているかどうかについて尋ねたところ、「視聴している」29.6%、「視聴していない」70.4%で、約3割の方が既に地上デジタル放送を視聴しているとの結果となった。

尚、総務省調査による受信機普及率の全国平均は27.8%であり、設問に若干の相違はあるものの、ほぼ同水準となった。



### 3. 地上デジタル放送利用状況(視聴方法・利用サービス)

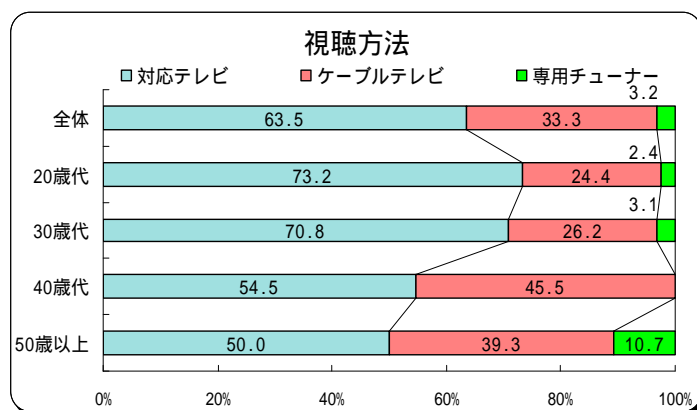
(視聴方法:1位「対応型テレビ」、2位「ケーブルテレビ」、3位「専用チューナー」)  
 (利用サービス:6割以上が「いつでもニュースや気象情報が見られる」)

「視聴している」と回答した方に、視聴方法と利用サービスについて尋ねた。

#### (1)視聴方法

どのような方法で視聴しているかと尋ねたところ、「対応型テレビ」63.5%、「ケーブルテレビ」33.3%、「専用チューナー」3.2%と、対応型テレビで視聴している方が最も多かった。

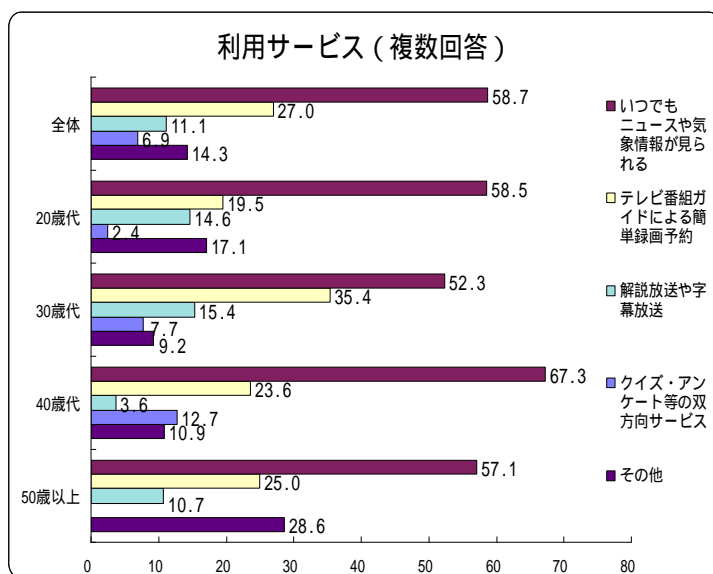
「対応型テレビ」では、20歳代(73.2%)と30歳代(70.8%)が高く、40歳代(54.5%)・50歳以上(50.0%)は低かった。「ケーブルテレビ」では、40歳代(45.5%)と50歳以上(39.3%)が高く、30歳代(26.2%)と20歳代(24.4%)は低かった。「専用チューナー」では、50歳以上(10.7%)が特に高いという結果になった。



#### (2)利用サービス(複数回答)

どのようなサービスを利用しているかと尋ねたところ、「いつでもニュースや気象情報が見られる機能」58.7%、「テレビ番組ガイドによる簡単録画予約機能」27.0%、「解説放送や字幕放送機能」11.1%、「クイズやアンケートなどの双方向サービス機能」6.9%の順であった。

「いつでもニュースや気象情報が見られる機能」が各年代とも5割以上で、最も利用されているサービスであった。



#### 4. 地上デジタル放送切替予定(切替予定時期・切替予定方法)

(切替予定時期:「ぎりぎりまで切替えたくない」60.8%)

(切替予定方法:1位「テレビを買換える」、2位「ケーブルテレビで視聴する」、3位「デジタルチューナーを買い足す」)

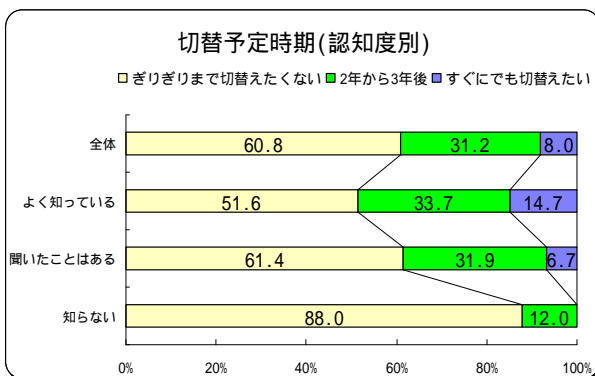
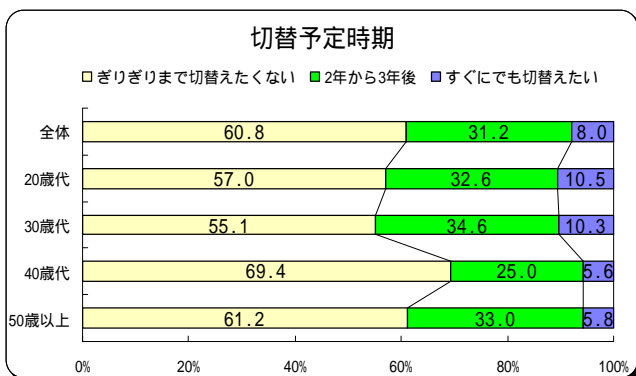
「視聴していない」と回答した方に、地上デジタル放送の切替予定時期と方法について尋ねた。

##### (1)切替予定時期

今後どのくらいの期間で地上デジタル放送に切替えるかについて尋ねたところ、「ぎりぎりまで切替えたくない」(60.8%)、「2年から3年後」(31.2%)、「すぐにも切替えたい」(8.0%)の順となった。

各年代ともに「ぎりぎりまで切替えたくない」が最も多く、その中でも40歳代・50歳以上の割合が高かった。同時に行った「冬のボーナス・消費アンケート調査」のボーナスの使いみちにおいても、40歳代・50歳以上は他の年代より消費支出の配分が少なくなっている。

地上デジタル放送の認知度別の切替予定時期では、認知度が低いほど「ぎりぎりまで切替えたくない」の割合が高くなっている。一方、「よく知っている」と回答した方でも、「ぎりぎりまで切替えたくない」(51.6%)が半数以上あり、スムーズな移行に向け、何らかの対応策が必要である。



##### (2)切替予定方法

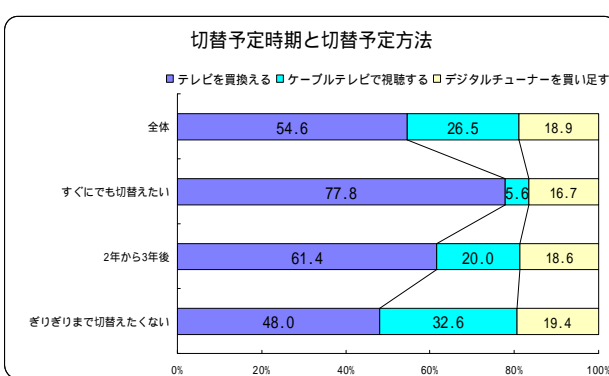
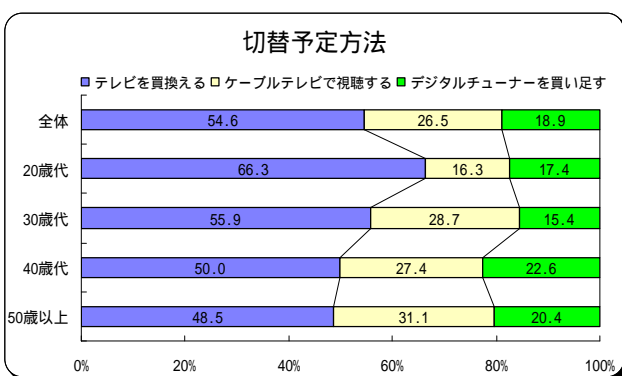
地上デジタル放送をどの様な方法で視聴する予定かについて尋ねたところ、「テレビを買換える」(54.6%)、「ケーブルテレビで視聴する」(26.5%)、「デジタルチューナーを買い足す」(18.9%)の順であり、半数以上の方がテレビを買換える予定であるとの結果が出た。

一方、「デジタルチューナーを買い足す」を回答された方が約2割あり、引き続きアナログテレビの使用を希望する方に対して簡易デジタルチューナー等の普及策の必要性が窺える。

切替予定方法別では、「テレビを買換える」が20歳代(66.3%)、30歳代(55.9%)、40歳代(50.0%)、50歳以上(48.5%)の順であった。「ケーブルテレビで視聴する」が50歳以上(31.1%)、30歳代(28.7%)、40歳代(27.4%)、20歳代(16.3%)。「デジタルチューナーを買い足す」が40歳代(22.6%)、50歳以上(20.4%)、20歳代(17.4%)、30歳代(15.4%)となった。

「テレビを買換える」は20歳代で、「ケーブルテレビで視聴する」は50歳以上で、「デジタルチューナーを買い足す」は40歳代で回答が最も多かった。

切替予定時期と切替予定方法を見ても、「テレビを買換える」と回答した方は「すぐにも買換える」(77.8%)と回答した割合が高く、「ケーブルテレビで視聴する」と回答した方は「ぎりぎりまで切替えたくない」(32.6%)と回答した割合が高かった。また、「デジタルチューナーを買い足す」と回答した方は、どの切替予定時期ともに2割弱の回答であった。

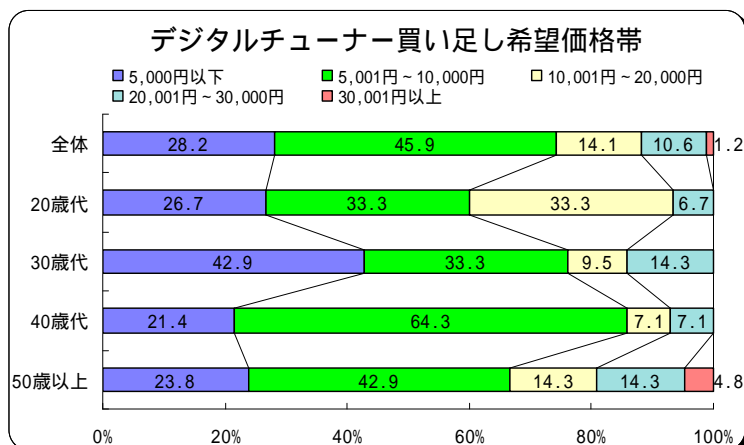


## 5. デジタルチューナー買い足し希望価格帯

（「5,000 円以下」と「5,001 円～10,000 円」合せて7割以上）

「視聴していない」と回答し、かつ「デジタルチューナーを買い足す」と回答した方に、いくらぐらいまでなら出費してもよいかと尋ねたところ、「5,001 円～10,000 円」（45.9%）、「5,000 円以下」（28.2%）、「10,001 円～20,000 円」（14.1%）、「20,001 円～30,000 円」（10.6%）、「30,001 円以上」（1.2%）の順となった。

「5,000 円以下」と「5,001 円～10,000 円」の回答割合を合せると7割以上の回答であった。平成19年8月に総務省情報通信審議会の答申で、メーカー等に対して「2年以内に5,000 円以下の簡易なチューナーを視聴者が望めば入手できるような環境整備が望ましい」としており、本調査結果からも妥当な水準であると考えられる。



以上